

2025年3月期1Q決算に関するQ&A（要旨）

この質疑応答集は、投資家の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 当第1四半期が営業赤字となったのは、主に米国ハリウッドのストライキの影響による映像制作技術サービス（海外）の減益が要因と決算補足資料に記載があった。ストライキ自体は2023年11月に終結していると思うが、当第1四半期にまだ影響が続いている理由を教えてください。

A 米国ハリウッドのストライキは2023年11月に終結しましたが、字幕や吹替などのローカライズ作業は後工程となるため、海外E2Eサービスにおいて、特に2024年1-3月に大きく受注が減少しました。海外E2Eサービスの2024年1-3月の業績は、当社連結においては当第1四半期に反映されるため、主にこの影響により、当第1四半期は営業赤字となりました。

Q2. 円安による為替影響はどの程度あったか。

A 当第1四半期の前年同期比較において、円安は、海外E2Eサービスの売上高には増収の影響となりましたが、同事業が現地通貨ベースで赤字であったため、利益には減益の影響となりました。

Q3. 「薬屋のひとりごと」のコミックロイヤリティ収入やTVアニメ制作委員会の配分金収入は、今後どのタイミングで計上されていくのか。

A コミックのロイヤリティ収入（コミックの販売に応じた著作権使用料の支払）は、コミックが販売された後、数か月後に入金される形になります。TVアニメ制作委員会からの配分金収入は当第1四半期から支払が開始されました。今後制作委員会において収益が計算される毎に、定期的に出資比率に応じた配分金等が支払われる予定です。

Q4. 国内の自動車メーカーの型式指定申請における不正行為が発覚したが、この問題による影響はあるか。

A 当社のハイスピードカメラは、自動車の研究・開発・製造の現場で使われております。現時点で影響は出ておりませんが、衝突安全試験などの各種安全試験は開発過程での必須検査のため、今回の不正行為の発覚を受けて自動車メーカーの検査がより厳格化されるようなことがあれば、当社のハイスピードカメラの需要が高まる可能性もあると考えております。

以上